

平成29年度 放課後子ども教室一覧

6市町22教室

市町名	教室名	実施場所	対象学校区名	委託	委託団体名
近江八幡市	寺子屋 金田	金田小学校 金田コミュニティセンター	近江八幡市立金田小学校		
栗東市	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	栗東市立葉山東小学校	○	栗東市地域教育協議会
	はるたっこ広場	治田小学校 コミュニティセンター治田	栗東市立治田小学校		
	チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 コミュニティセンター治田東	栗東市立治田東小学校		
	治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西	栗東市立治田西小学校		
	大宝わくわくタイム	大宝小学校	栗東市立大宝小学校		
	さんさん・キッズ	大宝東小学校	栗東市立大宝東小学校		
	大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 コミュニティセンター大宝西	栗東市立大宝西小学校		
甲賀市	岩上公民館子ども教室	岩上公民館	甲賀市立水口小学校		
野洲市	野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	野洲市立野洲小学校	○	野洲市地域教育協議会
	三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ	野洲市立三上小学校		
	祇王子どもクラブ	コミュニティセンターぎおう	野洲市立祇王小学校		
	篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら	野洲市立篠原小学校		
	北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの	野洲市立北野小学校		
	中主地域子ども教室(中里学区)	コミュニティセンターなかさと	野洲市立中主小学校		
	中主地域子ども教室(兵主学区)	コミュニティセンターひょうず	野洲市立中主小学校		
湖南市	中3年生夜の勉強会	青少年の家	湖南市立石部中学校		
	夏休み教室・道草教室	甲西中学校	湖南市立甲西中学校		
	基礎学力補充教室	甲西北中学校	湖南市立甲西北中学校		
	夜の学習会	市民学習交流センター (サンヒルズ甲西)	湖南市立日枝中学校		
豊郷町	さとっこふれあい教室	豊郷町公民館	豊郷町立豊郷小学校 豊郷町立日栄小学校	○	豊郷町青少年育成町民会議
	とよっ子探検隊	豊郷町公民館	豊郷町立豊郷小学校 豊郷町立日栄小学校	○	豊郷町青少年育成町民会議

近江八幡市における放課後子ども教室の取組

■目指す姿

- ・放課後に子どもたちが安全に、有意義に過ごせるための居場所を作る

■本年度の活動

- ・宿題や自主学習
- ・学力補充（プリントによる復習）
- ・スポーツによる仲間づくり

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・地域コーディネーターをPTA会長経験者で、現金田小学校の保護者に依頼することで、参加児童および参加児童の保護者から直接感想を伝えてもらうことができ、地域コーディネーターが達成感や意欲を持って活動することができた。
- ・教育活動推進員を学生に依頼することで、学校と地域の協働活動に若者を巻き込むことができた。
- ・子どもたちが活動を楽しみにして参加し、有意義に放課後を過ごせた。
- ・保護者からも好評で、続けてほしいという声が多数聞かれた。

○課題

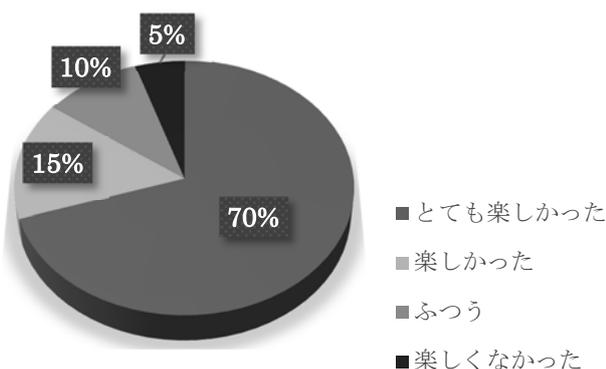
- ・本年度は、企画や準備、運営等を近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課で行ったため、地域の力が生かされていたかという疑問が残る。来年度は、学校と地域で運営する形にして、生涯学習課がバックアップをしていきたい。

■放課後児童クラブや他の関連事業との連携について

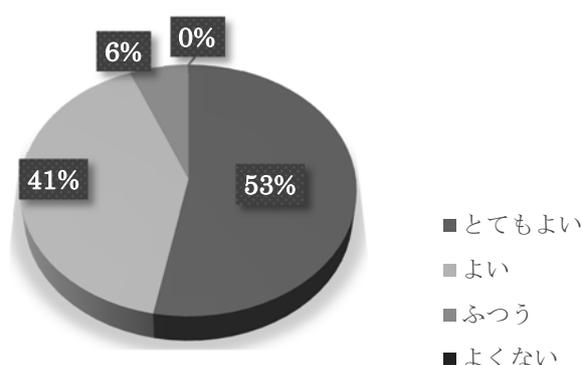
- ・今回、放課後子ども教室を設置した金田学区は児童数が大変多いので、教育活動推進員の人数や活動場所の確保の面から放課後児童クラブとの連携は難しかった。
- ・市の生涯スポーツ課と連携し、スポーツ推進員による「出前講座」を行った。

■その他・・・取り組み終了後、「寺子屋金田」に参加した金田小学校4年生児童（21名）と、その学年の保護者（175名）にアンケート調査を行った。

「寺子屋金田」の学習はどうでしたか
（参加児童全員アンケート結果）
【金田小学校4年生21名(回収率100%)】



このような取組についてどう思いますか
（参加学年保護者アンケートの結果）
【金田小学校4年生保護者96名
回収率(約55%)】



みんなで学び、みんなで楽しみ、みんなで笑う！！「寺子屋 金田」

近江八幡市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 「寺子屋 金田」 (対象学校名：金田小学校)		平均スタッフ数	3 人
主な活動場所 金田小学校体育館、金田コミュニティセンター		子どもの平均参加人数	20 人
年間開催日数	10 日	開始年度	平成 29 年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 □体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・宿題や自主学習
- ・学力補充
- ・スポーツを通じた仲間づくり

■ 特徴的な活動内容

- ・近江八幡市教育委員会事務局生涯スポーツ課と近江八幡市スポーツ推進委員の「出前講座」として、3回にわたってキンボールに取り組み、仲間づくりができた。1回目は「ルールと動きの確認」、2回目は「チームプレーと戦術」、3回目は「試合」と段階を追って指導することで、互いに声をかけあい、白熱した試合を行うことができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・子どもたち同士で学び合い、教えあうことを大切にした。
- ・教育活動推進員を児童に歳の近い学生にすることで親しみやすい雰囲気にした。
- ・学力補充は、学校の学習進度を邪魔することがないように復習のみを行った。
- ・その日の活動の流れや時間をホワイトボードに書き、子どもたちと教育推進員に見通しを持たせるようにした。

■ 地域の方々との関わり

- ・金田コミュニティセンターを会場にすることで、金田まちづくり協議会にも協力を仰いだ。
- ・地域コーディネーターを元PTA会長で、現在も金田小学校の保護者に依頼することで、参加児童の保護者との風通しが良かった。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・今のところは無い。放課後児童クラブに在籍している児童が2人参加した。

■ 学校との関わり

- ・出前講座のスポーツ体験は、小学校の体育館を使った。
- ・プリントやアンケートの配布・回収は学校を通じて行った。
- ・来年度は、学校を通じて地域に呼びかけ、教育活動推進員を集める予定である。

■ 事業の成果

- ・教育活動推進員を学生にすることで、身近なお兄さんお姉さんと親しみや憧れを持って触れ合うことができ、キャリア教育の面からも成果があった。
- ・子どもたちが楽しんで学習することができ、保護者からも好評だった。
- ・学習やスポーツをとおして、新たな友だち関係をつくることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・本年度は、生涯学習課員（小学校教諭）が企画、準備、運営を行っており指導にも入った。来年度からは、地域の力で行うため、子どもたちへの指導や教室の運営についてのサポート体制を考えることが必要である。
- ・金田コミュニティセンターの広さから定員が20名になっているが、今年度の評判がよく来年度の応募人数が増えることが考えられるため、教育活動推進員の増員や活動場所の再考が必要になる。

■ 他事業との関わり

- ・近江八幡市教育委員会事務局生涯スポーツ課 近江八幡市スポーツ推進委員会 「出前講座」

■ その他

- ・はじめをつけるため開講式と修了式を行った。修了式には、子どもたちがリコーダーのBGM付きの呼びかけを考えてきて発表する一幕もあった。地域コーディネーターも教育活動推進員も感激し、子どもたちとの別れを惜しんだ。



【 キンボールに取り組む子どもたち 】



【 修了式でお手紙をもらいました！ 】

栗東市における放課後子ども教室の取組

■目指す姿

- ・学校を核として、学校、家庭及び地域住民相互の連携及び協力を推進し、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。

■本年度の活動

- ・おおむね年間を通じて、放課後を中心に週1回程度、放課後や週末におけるスポーツや体験・文化活動をととして、子どもと地域住民との交流などを行う。

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者等を安全管理員等として配置し、年間を通じて、放課後を中心に週1回程度スポーツや体験・文化活動を通じて子どもたちは放課後を有意義に過ごすことができた。また、子どもたちと地域住民との交流も深めることができた。

○課題

- ・スタッフの確保が大きな課題となっている。9小学校区のうち、2小学校区がスタッフ不足のため開催できていない。開催できている学区においても、スタッフの高齢化等、慢性的なスタッフ不足が大きな問題となっている。教室が実施される時間帯において、若い世代の方は、就労や、小学生未満の子どもへの育児、また、スタッフの主要構成世代となっているシルバー世代の方についても就労されている方が増えてきており、なかなかスタッフが集まらないのが現状。

■放課後児童クラブや他の関連事業との連携について

- ・市内各小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■その他

- ・七夕やクリスマスといった季節に応じたイベントや、お誕生会など子どもたちが楽しんで参加できるイベントをそれぞれの学区で工夫しながら実施した。



【 レクリエーション 】



【 平和学習 】

活動を通してみんなとふれあう「葉山東ふれあい子ども広場」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 葉山東ふれあい子ども広場 (対象学校名：葉山東小学校)		平均スタッフ数	11 人
主な活動場所 葉山東小学校体育館、コミュニティセンター葉山東		子どもの平均参加人数	47 人
年間開催日数	29 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ ■文化・芸術 □体験活動 ■その他（将棋、お楽しみ会）		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、クラフト、将棋などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」の3部門で参加者を募集。体育館ではボール遊びや卓球、縄跳び等の軽スポーツを実施。コミュニティセンターでは将棋、クラフトなどの文化活動を実施。長期休暇前に3部門合同のお楽しみ会を行い、各部門が集まって交流できる場をつくっている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・普段は3部門に分かれて活動しているため、別部門との交流がないが、お楽しみ会を実施することにより、別部門の参加者とも交流を図ることができるようにしている。「クラフト」部門ではコミュニティセンターにおいて実施される地域の事業とも連携して、クラフトで作った作品を展示し、地域の方に活動の成果を見て頂く機会を提供している。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・3部門に分かれて活動していることから、お楽しみ会を通して各部門の参加者同士の交流を図った。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」の3部門による活動を通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

スタッフの高齢化やスタッフの不足が大きな課題となっている。

■ 他事業との関わり

「クラフト」部門ではコミュニティセンターにおいて実施される地域の事業とも連携して、クラフトで作った作品を展示し、地域の方に活動の成果を見て頂く機会を提供している。



【 お楽しみ会 】



【 クラフト 】

いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 はるたっこ広場 (対象学校名：治田小学校)		平均スタッフ数	7 人
主な活動場所 治田小学校体育館、コミュニティセンター治田		子どもの平均参加人数	54 人
年間開催日数	25 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	□月 □火 □水 □木 ■金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 □体験活動 ■その他 (絵本の読み聞かせ、お楽しみ会)		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や絵本の読み聞かせ、軽スポーツなどを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・低学年と高学年で授業の終了時間が異なることから、低学年は高学年の授業が終わるまでコミュニティセンターで、宿題や本の読み聞かせを行い高学年の授業が終わるのを待つ。高学年の授業終了後に体育館へ移動し、ボール遊びなどの軽スポーツを行う。

■ 実施に当たっての工夫

- ・体育館での自由遊びを基本とし、スタッフは参加者と一緒に遊んだり、活動の見守りを行っている。低学年と高学年の授業終了時間が違うことから、低学年が待機している時間を有効に使えるように、コミュニティセンターを活用し宿題や読み聞かせを行っている。また、クリスマスには、別途参加費を徴収してお楽しみ会を開催している。お楽しみ会では、コミュニティセンターの調理室を借りて、ホットケーキ作りを行っている。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・参加した子どもたちが楽しめるよう、クリスマスにはホットケーキ作りを行っている。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・自由遊びや、読み聞かせなどを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

- ・スタッフの高齢化やスタッフの不足が大きな課題となっている。

■ 他事業との関わり

- ・特になし。



【 絵本の読み聞かせ 】



【 お楽しみ会 】

新しい体験にどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 チャレンジはるひがっこ (対象学校名：治田東小学校)		平均スタッフ数	8 人
主な活動場所 治田東小学校体育館、コミュニティセンター治田東		子どもの平均参加人数	38 人
年間開催日数	34 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 ■長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 ■体験活動 ■その他（お楽しみ会）		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、体験活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・季節に応じて七夕やクリスマスなどのイベントを積極的に行っている。また、夏季休暇期間中に親子参加型のお楽しみ会を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・普段の活動では、自由遊びを基本としており、参加者がそれぞれ好きな事をして過ごしている。スタッフは、参加者の見守りや、遊びの補助を行っている。夏季休暇期間中にお楽しみ会を実施し、参加者の保護者や兄弟にも参加を呼びかけ、家族同士の交流の場としても活用している。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・季節に応じたイベントを積極的に取り入れ、参加者が楽しめるような活動を実施した。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

スタッフの高齢化やスタッフの不足が大きな課題となっている。

■ 他事業との関わり

特になし。



【 自由遊び 】



【 夏休みお楽しみ会 】

放課後の時間をのびのび過ごす「治西のびのび広場」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 治西のびのび広場 (対象学校名：治田西小学校)		平均スタッフ数	8 人
主な活動場所 治田西小学校体育館、コミュニティセンター治田西		子どもの平均参加人数	32 人
年間開催日数	29 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	■月 ■火 ■水 ■木 ■金 ■土 ■日 ■長期休業中 ※活動内容により曜日を変えています。		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の家庭科室や体育館、コミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動、体験学習などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・地域のスポーツクラブの活動や、地域の祭りにおけるステージ発表に参加するなどの機会を通じて、地域の方との交流を深めるとともに、活動の成果発表の場としている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・帰宅時には、スタッフが参加者と一緒に帰ることによって、保護者の迎えがなくても活動に参加できるような工夫をしている。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。
また、地域のスポーツクラブの活動や、地域の文化祭におけるステージ発表に参加している。

■ 今年度の力点・重点

- ・例年、参加している地域の文化祭のステージ発表に向けた取組を中心に、幅広い体験活動を実施した。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・教員がスタッフとして参加し、活動計画等を提案し、主体的に活動を進めている。

■ 事業の成果

- ・軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

- ・スタッフの高齢化やスタッフ不足が課題となっている。

■ 他事業との関わり

- ・地域のスポーツクラブの活動や、地域の祭りにおけるステージ発表に参加している。



【 ペットボトルポットづくり 】



【 クッキング 】

いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 大宝わくわくタイム (対象学校名：大宝小学校)		平均スタッフ数	11 人
主な活動場所 大宝小学校体育館		子どもの平均参加人数	44 人
年間開催日数	22 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、体験活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・活動内容をスタッフ会議で事前に決定し、毎回違う活動を行っている。また、季節に応じた活動も積極的に取り入れている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・活動は個人で行うものからチームで行うものまで様々あり、毎回違う内容で参加者が楽しめるように実施している。
- ・毎回活動の最後にドッジボールを行っており、体力差などに考慮した対戦を行い、参加者が楽しめるようにしている。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・毎回違う活動内容で参加者が色々なことに興味を持つきっかけを提供できるようにした。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・様々な体験活動を通して、参加している子どもたちに色々なことに興味を持つきっかけを提供できた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

- ・スタッフの確保が困難になっている。

■ 他事業との関わり

- ・特になし。



【 バルーンアート体験 】



【 ミニ運動会 】

明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 さんさん・キッズ (対象学校名：大宝東小学校)		平均スタッフ数	11 人
主な活動場所 大宝東小学校体育館		子どもの平均参加人数	47 人
年間開催日数	25 日	開始年度	平成 19 年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・参加者の自主性に任せた軽スポーツや創作活動などの自由遊びを基本にしているが、しゃぼん遊びや、かるた遊びなど、年に数回体験イベントを実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・参加者の自主性に任せた軽スポーツや創作活動などの自由遊びを基本にしているが、年に数回体験イベントを実施している。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・自由遊びを基本に、昨年度好評であったしゃぼん遊びや、かるた遊びなどの体験イベントを実施した。



【 自由遊び 】

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・自由遊びや、体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。



【 スローイングビンゴ体験 】

■ 事業実施上の課題

- ・スタッフの確保が課題となっている。

■ 他事業との関わり

- ・特になし。

地域の方とのふれあい大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

栗東市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 大宝西ふれあい子ども広場 (対象学校名：大宝西小学校)		平均スタッフ数	9 人
主な活動場所 大宝西小学校体育館、コミュニティセンター大宝西		子どもの平均参加人数	36 人
年間開催日数	27 日	開始年度	平成 19 年度
活動日 □月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中			
活動内容 ■学習活動 ■スポーツ □文化・芸術 ■体験活動 ■その他（お楽しみ会、お誕生日会）			

■ 活動の概要

- ・放課後の時間、小学校の体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、体験活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・毎月 1 回程度レクリエーション的な体験活動を行っている。
- ・例年 9 月には平和学習を行っている。
- ・また、毎月月末に、誕生月の子どもたちに対し、参加者全員で歌を歌うなどのお祝いをしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・参加者をグループ分けし、毎月 1 回程度レクリエーション的な活動を行い、異学年間の交流を促進している。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の方々にスタッフとしてご協力を頂きながら事業活動を行っている。

■ 今年度の力点・重点

- ・参加者に色々な体験をしてもらえるように、毎月 1 回程度レクリエーション的な活動を行った。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・小学校区に学童保育所は設置されているが、指定管理者により運営されており、運営方針や活動内容等が異なることから連携は行っていない。

■ 学校との関わり

- ・小学校の体育館を活動拠点として利用している。
- ・参加児童への連絡調整等にも協力いただいている。

■ 事業の成果

- ・自由遊びや、レクリエーション活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・子どもと地域住民の交流を深めることもできた。

■ 事業実施上の課題

- ・スタッフがやや不足気味である。

■ 他事業との関わり

- ・特になし。



【 学習活動（宿題） 】



【 ニュースポーツ体験 】

甲賀市における放課後子ども教室の取組

■目指す姿

- ・放課後の安全・安心な子どもたちの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。
- ・さらなる地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の活動

- ・水口小学校区内の岩上地域（公民館）において、昨年度から引き続き「放課後子ども教室」を実施した。
- ・岩上公民館子ども教室運営委員会を6月に開催し、地域の方や各関係機関から意見をいただき教室をスタートさせた。
- ・事業内容は工作や料理など様々な体験活動とし、放課後の居場所づくり・仲間づくりを行った。

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・地域の協力が必要不可欠な当事業において、必要に応じて地域の方と話し合いの場を設定し、お互いの課題等を共有し良好な関係を構築できた。
- ・学校とは、教室の啓発や児童の募集に協力をいただいた。

○課題

- ・地域と良好な関係を構築できているものの、まだまだ行政主導の企画運営になっていることから、地域で子どもを育てるには、地域力の向上が有効であるとこれまで以上に啓発していかなければならない。

■放課後児童クラブや他の関連事業との連携について

- ・放課後児童クラブ等に通う児童の生活の場として機能していかなければならないが、その機能が十分に担保できていないことから連携を構築できていない。



【 地元の高校と連携 】



【 押し花でしおりづくり 】

野洲市における放課後子ども教室の取組

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援するとともに、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	平成 29 年 5 月 26 日	13 名	(1) 平成 29 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 29 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 30 年 3 月 2 日	一名	(1) 平成 29 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 30 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、中主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会代表、小学校教頭会代表

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・ 様々な体験活動を通じた異年齢同士の交流を深めることにより、子どもたちは社会性を身につけることができ、子どもたちの生きる力が育まれている。
- ・ 地域の方々が子ども教室の講師やボランティアとして関わることで、子どもを地域全体で育てていこうという雰囲気醸成されてきた。

○課題

- ・ 指導者が高齢化してきており、後継者も育っていないため、指導者を探すことが困難な地域がある。

■放課後児童クラブや他の関連事業との連携について

- ・ 本市では、一体的な取組みを実施していないものの、それぞれの役割や特色を活かした事業展開をするにあたり、情報等の共有や連携を図るよう努めている。

野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 野洲学区わくわく子どもクラブ (対象学校名：野洲小学校)		平均スタッフ数	3 人
主な活動場所 コミュニティセンターやす		子どもの平均参加人数	14 人
年間開催日数	55 日	開始年度	平成 18 年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 □日 ■長期休業中		
活動内容	□学習活動 □スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から5年生19名参加9回開催
- ②わくわく絵手紙は、小学生1年生と4・5年生12名参加9回開催
- ③わくわく親子クッキング①は、小学生1・2年生とその保護者4組8名参加5回開催
- ④わくわく親子クッキング②は、小学生1・2年生とその保護者5組11名参加5回開催
- ⑤わくわく日本舞踊は、小学生1年生・2年～6年生10名参加9回開催
- ⑥わくわく茶道①は、小学生1年生～3年生19名参加9回開催
- ⑦わくわく茶道②は、小学生4年生から6年生15名参加9回開催

■ 特徴的な活動内容

・子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。

- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！をテーマ
- ②絵を描くには、ものの形をしっかりと見なくてはね。自然観察もだいじですね。
絵手紙をとどけようかな！
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識
料理を通じて親子のコミュニケーションを図る
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運び方のけいこ！
美しい体の動かし方が、身についたら最高ですね！
- ⑤おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを！日本の四季を感じて！
和菓子作りの体験

■ 実施に当たっての工夫

・安全対策として、保護者に送迎をお願いしている

■ 地域の方々の関わり

・指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図る

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

・関わり連携はありません

■ 学校との関わり

・募集チラシを持参して参加の呼びかけをする

■ 事業の成果

・同年代のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年代との交流ができた

■ 事業実施上の課題

・指導者、サポーターの後継者問題



【 わくわく茶道② 】



【 わくわくいけ花 】

野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 三上 楽しいクラブ活動 (対象学校名：三上小学校)		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 コミュニティセンターみかみ		子どもの平均参加人数	14 人
年間開催日数	47 日	開始年度	平成 14 年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 □長期休業中		
活動内容	□学習活動 □スポーツ ■文化・芸術 □体験活動 ■その他（生活）		

■ 活動の概要

三上 楽しいクラブ活動

- 「生け花」・・・月 1 回 (第 1 土曜日 9:30~10:30)
- 「茶 道」・・・月 1 回 (第 4 土曜日 10:00~12:00)
- 「クッキング」・・・月 1 回 (第 3 土曜日 9:30~12:30)
- 「将 棋」・・・月 2 回 (第 2・4 土曜日 9:00~11:00)

■ 特徴的な活動内容

- ・学校完全 5 日制の実施に伴い、親子で休日をも有意義に過ごすことを目的として平成 14 年 9 月から楽しいクラブ活動が始まりました。
- ・年度当初に小学校を窓口で募集し、一年間を通して参加するものです。上記以外にも 6 つのクラブ活動があり同じクラブを継続する子ども、いろいろなクラブを経験する子どもさまざまですが、時間が重ならない様複数のクラブを楽しむ子どもも多くいるようです。

■ 実施に当たっての工夫

- ・クラブ数が多い為、学校事業、地域事業などを年間計画カレンダーに記載し、4 月と 10 月の年 2 回配布。
- ・コミセンみかみのまつり事業で生け花は展示、茶道は呈茶で日々の学習発表ができることを目標としている。
- ・将棋では、パソコンやマグネット版を使い楽しく取り組んでいる。また毎年、他館の子ども教室との交流戦も続けている。
- ・クッキングは大変人気で、ケガの無いよう子ども 4 人に 1 人くらいの割合でサポートして頂いている。

■ 地域の方々の関わり

- ・教育活動推進員は全員が三上学区の方で、日々の学校見守りをされていたり、声掛けをされていたりで、子どもたちとも何かしらのつながりがあるように見受けられる。またコミセンが発信する広報紙を見て教育活動推進員を希望して下さった方もあり、うれしく思う。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・当クラブは平日の開催はなく、連携事項はない。

■ 学校との関わり

- ・三上地域教育推進委員会が主催のため計画から実施まで学校とのかかわりはない。但し、子どもたちへの連絡文書の配布は、小学校を窓口にしてお願いしている。

■ 事業の成果

- ・コミセン事業（悠紀まつり）では毎年茶道クラブと利用団体の茶道(同好会)の皆さんとで 150 名分の呈茶を提供していて、地域の方に喜ばれている。同時に生け花クラブは展示発表を行い、まつりを盛り立てている。
- ・あいさつもよくできるようになってきた。縦割りの構成になっているため上級生が下級生の事を思いやる姿も見かけることがある。
- ・卒業した子どもが手伝いに来てくれることもあり、継続の大切さを感じる。

■ 事業実施上の課題

- ・指導者の高齢化と事業継続の体制づくりが模索中である。
- ・この「楽しいクラブ活動」が、習い事や休日の面倒を見るという部分も少なくなく、献身的な教育活動推進員のボランティア活動に対する保護者の理解が薄く感じられる。

■ 他事業との関わり

- ・上記（事業の成果）の通り、コミセンみかみの「悠紀まつり」への参加は、ここに、学習発表の場があることで目標になっているのではないと思う。



【 悠紀まつり 生け花展示 】



【 悠紀まつり 呈茶コーナー 】

野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 祇王子どもクラブ (対象学校名：祇王小学校)		平均スタッフ数	7 人
主な活動場所 コミュニティセンターぎおう		子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	54 日	開始年度	平成17年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 □長期休業中		
活動内容	□学習活動 ■スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・よさこい妓王は、踊りをとおして子どもたちの健全な育成活動と、地域に『笑顔と元気』を届けたいと活動しています。
- ・クッキング教室は、健康推進員の指導で料理ができる力や健全な身体作りを目的に実施しています。また、早寝・早起き・朝食の大切さを学ぶ場として実施しています。

■ 特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・クッキング教室では、食事を通して肥満や生活習慣病の予防等、健全な身体作りについて学習している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・土曜日に事業が重なる場合があり、可能な限り子どもの事業がない日を選んで実施。
- ・初めての参加者には、基礎から丁寧に指導し、演舞や料理の楽しさを感じてもらえるようにしている。

■ 地域の方々の関わり

- ・よさこい妓王は、地域のイベントで演舞されていて祇王学区の方と近隣の地域の方々に楽しんでいただいている。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・特になし

■ 学校との関わり

- ・学校で配布物を配ってもらって子どもから親に伝え、学校・地域とつながりながら参加して募集しています。

■ 事業の成果

- ・よさこい妓王では、一人ひとりに声かけをすることで、自信をもって行動できるようになった。また、子ども同士や親同士も仲良くなり、全体のまとまりがでてきた。
- ・クッキング教室では、子どもたちが作った料理を自宅で調理したり、料理を手伝えるようになることで親子との会話が増え、保護者も地域事業に関心を持たれ、他の地域事業にも参加いただけるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・よさこい妓王では、中学にあがると塾や部活など忙しくなりほとんどの子が退会するので惜しいと思う。
- ・クッキング教室では、土日は塾や習い事で忙しくしている子が多く、低学年の子の参加が多い。

■ 他事業との関わり

- ・コミュニティセンターぎおうの事業では、夏まつりと秋の大収穫祭で演舞を披露していただきました。



【 よさこい妓王 】



【 クッキング教室 】

野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 篠原地域子ども教室 (対象学校名：篠原小学校)		平均スタッフ数	2 人
主な活動場所 コミュニティセンターしのはら		子どもの平均参加人数	13 人
年間開催日数	59 日	開始年度	平成17年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 ■長期休業中		
活動内容	■学習活動 ■スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- ・茶道教室、科学クラブ、料理教室、押し花教室、しのっこジュニアオーケストラなどです。

■ 特徴的な活動内容

- ・年間をとおしての茶道教室、しのっこジュニアオーケストラの演奏練習や、年2回から3回実施の料理教室や科学クラブ、押し花教室など、子どもたちのさまざまな体験をとおしていろんな興味を育み、仲間づくりや楽しく学ぶことを特徴としています。

■ 実施に当たっての工夫

- ・茶道教室は低学年と高学年の開始時間をずらして、進み方を工夫してします。
- ・料理教室もボランティアを増やし、細かな指導ができるようにしています。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の団体（自治会長・民生委員・健康推進員・補導委員・更生保護女性会）等の協力を頂いています。



【 茶道教室 】

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・特になし

■ 学校との関わり

- ・事業の参加募集チラシを学校を通じて配布してもらっています。
- ・体育館をお借りしたり、教室を観覧いただいたりしています。

■ 事業の成果

- ・各教室に参加している子どもたちは、自分の興味を、楽しみながら伸ばしているように思います。
- ・今後も参加したいとの声に、指導者はやりがいを感じます。



【 料理教室 】

■ 事業実施上の課題

- ・小学校の生徒数が少ない中での参加人員を募ること。
- ・マンネリ化を防ぐ新しい指導者の確保。

■ 他事業との関わり

- ・山部会の方をお願いして、里山探検を実施したり、同好会活動をされている先生に指導を依頼しています。

野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 北野っ子フレンドリークラブ (対象学校名：北野小学校)		平均スタッフ数	8 人
主な活動場所 コミュニティセンターきたの		子どもの平均参加人数	22 人
年間開催日数	16 日	開始年度	平成6年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 □日 □長期休業中		
活動内容	□学習活動 ■スポーツ ■文化・芸術 □体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

- 北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が依頼した教育活動推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して、教室の指導および安全管理を実施している。
- 平成29年度実施の科目と回数は次のとおりである。
囲碁：2回、将棋：3回、料理：4回、お菓子作り：2回、工作：1回、パソコン：4回

■ 特徴的な活動内容

- 参加者は固定ではなく、各事業実施日毎の自由参加（但し、要予約）としている。

■ 実施に当たっての工夫

- 参加者一人ひとりに寄り添い配慮して、実施している。

■ 地域の方々の関わり

- 地域の方々に、教育活動推進員として関わっていただいている。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- 特になし

■ 学校との関わり

- 4月に全学年を対象に、一括申し込み書を配布していただいている。

■ 事業の成果

- どの教室も、子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気があり、子どもの居場所づくりを目的とする「地域子ども教室」の成果となっているのではないと思う。

■ 事業実施上の課題

- 活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。

■ 他事業との関わり

- 特になし



【 集中して作品を作る様子 】



【 H29.11.18 料理教室 】

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人
活動名 中主地域子ども教室（中里学区） (対象学校名：中主小学校)		平均スタッフ数	3人
主な活動場所 コミュニティセンターなかさと		子どもの平均参加人数	10人
年間開催日数	20日	開始年度	18年度(茶道) 24年度(手芸)
活動日	<input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input checked="" type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 長期休業中		
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習活動 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要

- ・茶道クラブ：月1回、裏千家の作法を学ぶ
- ・手芸クラブ：月1回、糸の止め方など初歩から学び、刺しゅう等を体験

■ 特徴的な活動内容

- ・特になし

■ 実施に当たっての工夫

- ・茶道クラブ：子どもたちに12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるように工夫したりしている。
- ・手芸クラブ：子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 地域の方々の関わり

- ・講師の方等は、なるべく地元の方をお願いするようにしている。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・特になし

■ 学校との関わり

- ・募集チラシは直接学校に持って行って、全校生徒に配布いただけるようお願いしている。

■ 事業の成果

- ・子ども教室を長年継続して行うことにより、習い始めのころはおどおどしていた子どもたちも、在籍年数が経過するにつれ、自信をもつようになり、態度や言葉から成長を感じられることがある。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちの習熟度にばらつきがあるので、教えるのが難しいことと集中力を持続させること。

■ 他事業との関わり

- ・特になし



【 手芸クラブ 】



【 茶道クラブ 】

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

野洲市		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人
活動名 中主地域子ども教室（兵主学区） (対象学校名：中主小学校)		平均スタッフ数	3人
主な活動場所 コミュニティセンターひょうず		子どもの平均参加人数	30人
年間開催日数	19日	開始年度	平成18年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 ■長期休業中		
活動内容	□学習活動 □スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他（ ）		

■ 活動の概要

- ・主に小学生を対象に土曜日、日曜日など学校の休みに、生け花や茶道クラブ、クッキング教室など、様々な教室を開催している。

■ 特徴的な活動内容

- ・小学1年生から6年生までのさまざまな学年の子どもたちが一年をとおして毎回異なる内容の体験をする教室などがある。

■ 実施に当たっての工夫

- ・何よりも子どもたちが安全に楽しく過ごしてくれることに留意工夫している。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の自治連合会の役員の方や青少年育成会議の委員の方に年度当初に支援をお願いしている。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・特になし

■ 学校との関わり

- ・毎回、学校に募集チラシを持参し、生徒への配布をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・毎回楽しみにしてくれている子どもたちは、入学から卒業するまで毎年参加してくれるので、開催側も子どもたちの成長を見ることができる。また、保護者も兄弟一緒に参加できることを喜んでおられる。



【 紙ひこうき教室 】

■ 事業実施上の課題

- ・地域の方にボランティアに来ていただくのは容易ではない。

■ 他事業との関わり

- ・センターの祭りなどのイベントに茶道クラブの子どもたちがお抹茶コーナーの接待で参加し、地域住民の方に喜んでもらっている。



【 エコキャンドル作り教室 】

湖南省における放課後子ども教室の取組

■目指す姿

湖南省の放課後子ども教室は、これまでの取組をベースに、中学校の生徒の進路を実現させるための「学力補充」、「進路保障」の取組として行っている。放課後や夜間に学校や地域の施設等で、地域の大人、退職教職員、先輩の高校生や大学生の方々が関わり、学力補充が必要な生徒に寄り添っていただき、一緒に学ぶ仲間とともに互いに高め合いながら「学力の向上」を図っている。

■本年度の活動

実施校	開催日数	活動場所	主な内容
石部中学校	25日	校区内「青少年の家」	進路実現の学力補充 （「中3夜の勉強会」）
甲西中学校	夏7日 33日	学校図書室 学校図書室	中1中2年生基礎学力補充 中3年生進路実現のための 学力補充
甲西北中学校	25日	学校または 岩根会館 菩提寺まちづくりセンター	中1～3年生基礎学力補充
日枝中学校	13日	市民学習交流センター	中3年生個別進路実現の 学力補充（「夜の学習会」）

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・生徒が週1回～週3回ある程度決まった時間に学校の施設、集まりやすい校区の公共施設やボランティア組織の施設で継続的に学習を行うことにより、生徒自身の学習に対する構えや習慣づくりにつながっている。
- ・生徒にとっては、年齢が近く親しみやすい地域の高校生や大学生をはじめ、地域で支援して下さる方、退職教職員等の方から参加生徒の苦手な学習を一つでも減らせるよう、一人ひとりに寄り添ったサポートを受けている。

○課題

- ・サポートをいただく地域の方、大学生や高校生の支援ボランティアと、中学生の時間を合わせていくことが難しい。
- ・この取組の成果を伝えてサポートいただく方々に声かけを進めていき、地域の方、高校生や大学生を確保していく必要がある。
- ・次年度から、「地域未来塾」事業の中で、「放課後等学習教室」として取組を進めていくことが本来の主旨に合致するため事業替えを行いたい。



【地域の大学生等の方による個別のサポート】



【地域の方による1対2のサポート】

学力保障を窓口に、生徒の生き方を支援する「夜の勉強会」(石部中学校)

湖南省		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名 石部中放課後子ども教室「中3夜の勉強会」 (対象学校名：石部中学校)		平均スタッフ数	3 人
主な活動場所 青少年の家 (湖南省石部西1丁目)		子どもの平均参加人数	2 人
年間開催日数	25 日	開始年度	平成11年度
活動日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input checked="" type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 長期休業中			
活動内容 <input checked="" type="checkbox"/> 学習活動 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (教育 =進路= 相談)			

■ 活動の概要

- 石部中学校においては、3年生の抽出生徒を対象とする学力保障の学習会を地域の協力を得ながら長く続けている。現在の形になったのは平成11年度からであるが、隣保館や児童生徒支援加配教員が対象地区生徒に学力をつけることを願って実施する自主活動学級にならない、いわゆる「荒れ」にある生徒を対象とした「第2自主活」からすれば、30年以上の歴史がある。
- 自分の思いをうまく伝えられず人間関係づくりに難がある、自尊感情が低く粗野な言動を繰り返す、自暴自棄になる、授業についていけない、家庭環境に恵まれないなどの様々な要因により、授業エスケープや問題行動に走る生徒。しかし、思いをじっくり聞き出せば、社会に出るうえで身につけておくべき学力をしっかりとつけ、高校への進学を果たしたいと思っている者は少なくない。そうした生徒を選び出し、特に地域の「青少年指導支援の会」(趣旨に賛同して集まったボランティア組織。以下「支援の会」と記す)が大きくかかわってくださっており、高校進学をゴールとするのではなく、地域に住まう若者と長くかかわりあっていこうとするスタンスで、勉強会を通じ、言わば生徒の生き方そのものを支援していこうという思いを持ってくださっている。
- 途中、紆余曲折がありつつも途切れることはなく、毎年10月から卒業時までの半年間、学校と支援の会との連携・協働で、生徒の「荒れ」を食い止めつつ希望の進路を実現する勉強会を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- 学習の場は「青少年の家」という、支援の会が活動拠点としている建物で、生徒は毎週1回(今年度は水曜日)、午後6時過ぎに集まり8時まで勉強する。勉強は1対1を基本とし、時に地元大学生などもかかわってくれ、当該生徒が勉強したい(力をつけたい)教科を、本人の進み具合に応じて行っている。ただ、高校進学を視野に入れてスタートするものの、具体的に自分がどの高校で何をがんばりたいかが明確になっていない生徒もあり、そうした生徒に教育相談を進めるよい場にもなっている。

■ 実施に当たっての工夫

- 毎回の学習スケジュールは40分間の教科学習、10分の休憩、再び40分間の教科学習という流れを基本とするとともに、生徒と大人とのコミュニケーションを大切に、生徒にとって居心地のよい空間となるよう心がけている。

■ 学校との関わり

- 対象とする生徒を3年部が抽出し、生徒本人や保護者の意向と決意を確認する。また、児童生徒支援加配教員や3年部所属教員が勉強会に参加し、一緒に勉強する機会を持つ。進路に対する思いを聞き取るのも教員の役割が大きい。

■ 地域の方々の関わり

- 教科等の指導は中学校の教員や退職教員の有志、大学生などが担当するが、送迎を受け持ってくださいなのが支援の会の女性メンバーである。交替で生徒を迎え、学習を見守って見送るというあたかな雰囲気づくりは、この勉強会に欠かすことはできない。大学生の参加については、教育実習生や卒業生などに「自分自身も成長するよい機会」と声をかけている。

■ 事業の成果

- 毎年人数こそ少ない(対象を絞り込まないと1対1で勉強していくことが難しくなる)ものの、アットホームな場で素の生徒を見ることができる。そして、ふだんはなかなか表さない良さを知ることできる。支援の会の願いどおり、学力をつけることだけでなく、生徒の自尊感情が高まっていく様子を実感することもできる。
- 中学校時代に地域の人とかかわりをつくっておくと、それ以降の自立をめざす際にも具体的な支援に結びつけていくことが期待できる。

■ 事業実施上の課題

- 学校が抽出した生徒が必ずしも参加するとは限らず、参加を決めた生徒も何度も休むことがある。また、「支援の会」のみなさんが懸命にかかわってくださることになかなか感謝の思いを表せない生徒もいる。みなさんはそうしたことも織り込み済みで勉強会を続けてくださっているが、こうした活動を続け広げていくためには、新たな人材の確保も必要になってくる。



【1対1で勉強を進める】

進路保障のために～地域と高校生のボランティアによる学習支援～（甲西中学校）

湖南省		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名	放課後子ども教室 「甲西中夏休み教室」 「甲西中道草教室」	平均スタッフ数	4 人
主な活動場所	甲西中学校（会議室・多目的室）	子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	40日（内 夏休み7日）	開始年度	平成28年度
活動日	<input checked="" type="checkbox"/> 月 <input checked="" type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input checked="" type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業中		
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習活動 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要

- ・家庭学習の時間が少ない傾向にある本校の生徒の多くは、家庭の学習環境に起因している傾向にあることから、校内に自由に学習できる場所を整え、課題解決の一助としてきた。昨年に引き続き長期休業中や放課後の時間を利用して学習教室を開催した。
- ・本年度は、特に3年生の学力補充に重点をおいて実施。一人で学習することが難しい生徒には、地域の学習ボランティア（教育活動推進員）が対応。長期休業中は、学力補充のための学習教室を開設。10月から3月は、主に中学3年生を対象に進路保障のために週3日のペースで、放課後学習教室を開設している。

■ 特徴的な活動内容

- ・近隣高校と連携を図り、生徒会の生徒を中心に、「寄り道ボランティア」と名付けて学校帰りに本校に立ち寄ってもらい、生徒の学習支援に当たってもらっている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学力補充を必要とする生徒と自主学習をする生徒との部屋を分けて行っている。
- ・自主学習の生徒も進んで参加できるよう担任からも声掛けをしている。

■ 地域の方々の関わり

- ・学習ボランティア（教育活動推進員）として特に補充を必要とする生徒の支援にあたっている。



【 1 : 2で生徒の学習支援 】

■ 学校との関わり

- ・校内で実施されていることから、学習室には担当する教師が在室し、学習内容は学習ボランティア（教育活動推進員）と具体的な打ち合わせを行っている。

■ 事業の成果

- ・学習ボランティアとしての関わりから、生徒たちの成長を楽しみにしてもらっている。小学校で土曜教育推進員（ボランティア）としての関わりから、中学校のこの学習支援に入るなど、校区の児童・生徒を9年間見守る小中連携の体制を構築しつつある。そのため、家庭学習が難しい生徒については、安心して学習ができる場所になっている。
- ・「寄り道ボランティア」の高校生とは、年齢も近くお互いのためらいなく素直に対応でき、進路選択の憧れや進路指導の指針にもなっている。
- ・学習教室の存在を知り、自主的に参加する1年生の姿も見られるようになった。



【 個別に細やかな学習支援 】

■ 事業実施上の課題

- ・放課後の時間をどのように生み出すかが難しい。1、2年生の学力補充をと思うが、部活動や委員会活動との兼ね合いで実施が困難な状況にある。4月当初からの実施を可能すれば、1年生対象の放課後学習でつまずきに早めに対応することができる。
- ・また、近隣の高校から可能な日に「寄り道ボランティア」として学習支援をお願いしているが、年々参加者が減少傾向にある。原因としては、高校生自身が「自分の学力に自信が持てない」「教える自信がない」などと思っていることが挙げられる。「寄り道ボランティア」「一緒に考えてもらえることが大切」と伝えているが、難しい状況にある。

Let's Enjoy English (甲西北中学校)

湖南省		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名 放課後子ども教室 「甲北中基礎学力補充教室」 (対象学校名: 甲西北中学校)		平均スタッフ数	5 人
		子どもの平均参加人数	6 人
主な活動場所 甲西北中学校		開 始 年 度	平成 26 年度
年間開催日数	25 日		
活動日 <input checked="" type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 長期休業中			
活動内容 <input checked="" type="checkbox"/> 学習活動 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> その他 ()			

■ 活動の概要

- ・英語が苦手な生徒が気軽に英語に慣れ、少しでも「英語に親しむ」ということをねらいでスタートさせた。実施日とその頻度については、月曜日の隔週で放課後に約1時間の時間を確保している。教材についても、授業で使っている教科書からは離れた教材を使用し、「学習」や「勉強」といったスタイルにこだわらない形で事業を展開した。
- ・また、小学校から英語が導入され、中学校入学後の英語の授業内容との差を少しでも埋めることを目的に、「学習」という形態に拘りすぎず、「親しむ」ことを大切にしながら取組を進めるよう心がけた。

■ 特徴的な活動内容

- ・発展的な学習よりも初歩的な内容を中心に学習を進めた。1年生の英語の授業では、学習支援ボランティアに参加していただきながら、生徒との交流を深めている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・参加者が一人でも増えるように、対象とする学年に集会の時間を設けてもらい学習支援ボランティアから活動内容についての説明や、簡単な模擬授業を実施していただき、参加する際に少しでもイメージをもってもらいやすいような工夫を施した。
- ・併せて学級担任や部活動顧問からの呼びかけをこまめにしよう心がけるとともに、生徒同士の勧誘も実施した。また、目に見えるところにポスターを掲示するなど、生徒の目に触れやすい廊下に面した教室で実施するよう心がけた。
- ・また、各学年に1名いる英語科の教員や、隔週で来校するALTの協力も得ながら、事前の打合わせをとおして、活動内容の検討協議をこまめに行うようにした。



【 学年集会の様子 】

実際に学習支援ボランティアから模擬授業をしていただく中で、少しでもイメージが湧きやすいようにという学習支援ボランティアからの要望もあり実施している。

■ 事業の成果

- ・普通の授業と違い、少人数で学習を進めていくので、きめ細やかな指導が実施できた。このことが友だちを連れて教室を訪れる生徒の増加につながり、中学校の英語の入り口となる位置づけとしては定着しつつある。しかし、成果を求めるまでには至っていないところもある。息の長い継続的な取組を進めていくことで、この事業の成果と言える活動となるよう努力し続けていきたい。

■ 事業実施上の課題

- ・月曜日は部活動停止日に設定していることもあり、放課後になると帰宅を急ぐ生徒が大半なため、それにつられるかのように生徒の意識はそちらへ向いてしまう。このことが、この事業への参加率の低下に繋がっているように感じる。このことも含め、設定曜日の変更も視野に入れながら検討していきたい。



【 放課後学習の様子 】



【 教室前の案内 】

若い世代の交流を活かし、学習習慣づくりと学力を育てる（日枝中学校）

湖南省		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2人
活動名 放課後子ども教室 「日枝中学校夜の学習会」 (対象学校名：日枝中学校)		平均スタッフ数	5人
主な活動場所 市民学習交流センター（サンヒルズ甲西）		子どもの平均参加人数	8人
年間開催日数	13日	開始年度	平成25年度
活動日	□月 □火 ■水 □木 □金 □土 □日 □長期休業中		
活動内容	■学習活動 □スポーツ □文化・芸術 □体験活動 □その他（ ）		

■ 活動の概要

- ・大学生や一般の方、日枝中学校卒業の高校生など地域の方々に協力をいただき、3年生より支援が必要な生徒を抽出し、一人ひとり個別に丁寧に関わって学習サポートをしていただくことで、個々の生徒の苦手意識を克服し学力の向上を図る。
- ・10月から2月までの期間で13回実施した。

■ 特徴的な活動内容

- ・地域コーディネーターより地域の方に幅広く声掛けを行い、個々の学習サポート協力を依頼。
- ・参加生徒は、家庭環境により学習に集中しづらい、学習に向かう意識が低い、理解に時間がかかる、など様々な問題を抱えていて支援を必要としている。こういった一人ひとりの生徒に寄り添い、その生徒に合った勉強法や声かけを見極めながら支援することで、学習への苦手意識を払拭し、集中力を養えるようにサポートをしていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・会場は、市民学習交流センター（サンヒルズ甲西）の部屋をお借りし、参加する生徒が集まりやすいよう工夫している。
- ・また、参加する生徒たちにとって親しみやすく交流が行えるよう、また自分自身の将来の姿が想像しやすいというメリットもあるため、日枝中卒業の高校生や大学生に支援してもらえるように工夫した。参加した高校生から実際の高校生活や学習について聞くことができ、また将来の職業観などについても相談にのっていただくなど、生徒たちの心のケアにも対応していただけた。
- ・参加した高校生からは「実際の高校受験に対応した問題の解き方を教えてあげたい」との意見も出て、各教科に対応した問題を解くコツなどをレクチャーする場面もあり、単調な学習に終わらないようにする工夫も生まれた。

■ 地域の方々の関わり

- ・地域の高校生、大学生、大人と関わりを持ち学習することで、学校だけでなく地域とのつながりを感じ、参加中学生が「さまざまな人に支えられている」と励みにしている様子が伺え、回を重ねると共に取組のなかで笑顔が見られるようになるのも印象的だった。

■ 事業の成果

- ・毎週水曜日の19時から2時間を設定。継続して学習会を開くことによって、普段の生活において学習習慣がつきにくい生徒も学習に取り組む習慣づけができていったと感じた。
- ・自宅で一人では取組が進まない学習も、会場で同級生が頑張っている姿を見ることで、励みになり頑張れた生徒も多かった。
- ・地域の方に個別支援を行っていただくことによって、それぞれの生徒が自分のペースで苦手教科の問題に取り組むことができ、継続して関係性を築くことによって、分からない点やできない問題を質問する姿勢も見られた。



【 学習に集中できる環境づくり 】

■ 事業実施上の課題

- ・支援役として参加してくれる高校生や大学生も、各々学校の試験期間など都合により参加できない日もあり、指導にあたる地域の参加者が不足している日もあった。
- ・今年参加を依頼した学生も来年度は生徒自身が受験生になり夜の学習会サポートに参加出来ないことも予想されるので、来年度に向けて早めに学習支援者の募集の声かけを行っていく必要性を感じた。
- ・また、生徒の「基礎学習の積み重ね」の大切さと「高校入試向け学習」の必要性も感じるので、来年度以降どのようなバランスで学習会を進めて行くのが良いのか、どのような資料の準備が必要なのか検討・改善を行えるように活動を進めたい。
- ・来年度に向けてより多くの学習支援者に参加していただき、学習サポートを受けられる生徒の人数を増やしたいと考えている。



【 個別対応学習の様子 】

豊郷町における体験教室の取組

■目指す姿

小学校高学年(4年生～6年生)児童を対象とし、普段なかなかできないことを体験することにより、生きる力、協働する力を身につける。

学校や学年のちがう子たちとのかかわりにより、仲間をつくる力、協同することの大切さ、譲り合うことの大切さを学ぶ。

■本年度の活動

- ・高学年(4～6年生)と低学年(1～3年生)を分け、募集をしている。
- ・高学年は5回の活動で各回20名の定員を設けて実施。公共交通機関を利用する回を設け、切符購入からホームの移動、乗換等を子どもたちの力で行った。
- ・また、出前講座等を利用し、団体でないとできないことを体験した。
- ・低学年は全5回をとおし、30名の定員を設けて実施。地域の方々を講師として迎え、年間5回の活動を行った。

■本事業での地域と学校の連携・協働について

○成果

- ・学校の違う子ども、学年のちがう子どもたちでグループを作り、その中で、上級生が下級生の様子を見たり、指示をしたりできる子が徐々に増えてきている。また、感想等から、様々な体験を行う中で、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられる。
- ・共同作業を行う際のルール作りや譲りあい等を子どもたちの力でできるようになってきている。

○課題

- ・体験活動の種類によって、参加希望者の偏りがある。学習要素や少し困難な要素が含まれていると極端に少なくなることが多い。
- ・参加希望者が固定化されつつあるため、参加したことのない子へのアプローチをしていきたい。
- ・内容を固定化しないため、講師となってくださる地域の方を探している。文化サークル等はあるが実際に講師を引き受けてくれる方が少なく、新規開拓が難しい。

■放課後児童クラブや他の関連事業との連携について

特になし



【とよっ子探検隊「石器づくり」】



【さとっこふれあい教室「絵手紙」】

さとっこふれあい教室 ～地域の方々がせんせい～

豊郷町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	0 人
活動名 さとっこふれあい教室 (対象学校名：豊郷小学校・日栄小学校)		平均スタッフ数	5 人
主な活動場所 豊郷町公民館		子どもの平均参加人数	30 人
年間開催日数	5日	開始年度	平成29年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 ■長期休業中		
活動内容	□学習活動 □スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

小学校低学年（1～3年生）児童を対象として実施。普段の生活の中では体験できないことや、塾や習い事等で忙しくしている子、外で遊ぶなどの自然と触れ合う機会の少ない子どもたちに、様々な体験をさせる。また、年間をとおして5回活動を行うため、学校の違う子ども、学年のちがう子どもたちの関係を構築する。

■ 特徴的な活動内容

地域の方々を講師として迎え、年間5回の活動を行っている。内容は毎年工夫し、カード作りや絵手紙のような工作、生け花やお茶会体験のような伝統文化、お菓子作り教室、カロム教室等多岐にわたった内容を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

スポーツ少年団、習い事をしている子どもたちも参加がしやすいよう、曜日の偏りをなくすことや、夏季休業中に行うなど、実施日に気を付けている。

内容に変化を持たせ、多くの子に興味を持ってもらえるようにしている。

■ 地域の方々の関わり

講師として、子どもたちに指導をしていただいている。

教室を開いている方等ではなく、趣味や特技を生かした形での講師を依頼している。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

現在のところなし

■ 学校との関わり

募集を行う際に、協力を依頼



【 お菓子づくり(フルーツあめ) 】

■ 事業の成果

学校の違う子ども、学年のちがう子どもたちでのグループを作り、その中で、上級生が下級生の様子を見たり、指示をしたりできる子が徐々に増えてきている。

また、共同作業を行う際のルール作りや譲りあい等を子どもたちの力でできるようになってきている。

■ 事業実施上の課題

参加希望者が固定化されつつあるため、参加したことのない子へのアプローチをしていきたい。

内容を固定化しないため、講師となってくれる地域の方を探しているが、文化サークル等はあるが、実際に講師を引き受けてくれる方が少なく、新規開拓が難しい。

■ 他事業との関わり

特になし

とよっ子探検隊 ～普段できないことを体験しよう～

豊郷町		地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	0 人
活動名 とよっ子探検隊 (対象学校名：豊郷小学校・日栄小学校)		平均スタッフ数	5 人
主な活動場所 豊郷町公民館		子どもの平均参加人数	20 人
年間開催日数	5日	開始年度	平成29年度
活動日	□月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 ■長期休業中		
活動内容	□学習活動 □スポーツ ■文化・芸術 ■体験活動 □その他 ()		

■ 活動の概要

小学校高学年(4年生～6年生)児童を対象として実施。普段の生活の中では、体験できないことや、塾や習い事等で忙しくしている子、外で遊ぶなどの自然と触れ合う機会の少ない子どもたちに、様々な体験をさせる。また、学校の違う子ども、学年のちがう子どもたちでのグループを作り、その中での協同や仲間づくりの力をつける

■ 特徴的な活動内容

- ・博物館や美術館等に出向き、普段できないことや自然体験を行う。
- ・公共交通機関を利用する回を設け、切符購入からホームの移動、乗換等を子どもたちの力で行う。
- ・出前講座等を利用し、団体でないとできないことを体験する。

■ 実施に当たっての工夫

スポーツ少年団、習い事をしている子どもたちも参加がしやすいよう、曜日の偏りをなくすことや、夏季休業中に行うなど、実施日に気を付けている。参加者の募集を行う際に、多くの子どもたちが関心をもてるよう、各回の教室のタイトルを工夫している。

■ 地域の方々の関わり

役員の方々にお知らせし、協力を依頼した。

■ 放課後児童クラブとの関わり・連携

現在のところなし

■ 学校との関わり

募集を行う際に、協力を依頼した。



【 ガラスプレートづくり 】

■ 事業の成果

学校の違う子ども、学年のちがう子どもたちでのグループを作り、その中で、上級生が下級生の様子を見たり、指示をしたりできる子が徐々に増えてきている。また、感想等から、様々な体験を行う中で、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられる。

■ 事業実施上の課題

- ・体験活動の種類によって、参加希望者の偏りがある。学習要素や少し困難な要素が含まれていると極端に少なくなる。
- ・参加希望者が固定化されつつあるため、参加したことのない子へのアプローチをしていきたい。

■ 他事業との関わり

特になし

放課後児童クラブの現状

平成29年5月1日現在

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	222 箇所	児童数	81,471 人
小学校1～3年生の総数	40,773 人	*4～6年	40,698 人

(2) 放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
	98	144	69	311

(3) 放課後児童クラブの状況

調査項目		公立公営	公立民営	民立民営	合 計
実 施 場 所 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	47	16	3	66
	学校敷地内専用施設	30	62	1	93
	公有地専用施設	16	49	2	67
	民有地専用施設	0	2	22	24
	民家・アパート	0	1	3	4
	公的施設利用	1	11	10	22
	団地集会室	0	0	0	0
	保育所	0	0	6	6
	幼稚園	0	1	2	3
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	0	12	12
	その他	3	0	3	6
合計	98	144	69	311	
登 録 児 童 数 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数	9人以下	0	1	6	7
	10人～19人	4	9	4	17
	20人～35人	36	37	31	104
	36人～70人	26	65	23	114
	71人以上	32	32	5	69
合計	98	144	69	311	
障 害 児 受 入 数 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数	受入なし	10	29	29	68
	1人	18	25	21	64
	2人	20	26	11	57
	3人	20	22	5	47
	4人以上	30	42	3	75
合計	98	144	69	311	
平 日 の 終 了 時 刻 別 放 課 後 児 童 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数	17:01～17:30	0	0	0	0
	17:31～18:00	16	0	6	22
	18:01～18:30	42	51	5	98
	18:31～19:00	40	90	41	171
	19:01～20:00	0	3	14	17
	20:01～21:00	0	0	3	3
	21:01～22:00	0	0	0	0
合計	98	144	69	311	
休 日 の 開 館 状 況 別 放 課 後 児 童 ク ラ ブ 数	土曜日（毎週実施以外）	86 (7)	105 (69)	67 (15)	258 (91)
	日曜・祝日	0	11	12	23
	長期休暇	98	144	69	311
学 年 別 児 童 数	小学校1年生（障害児）	1,764 (72)	2,128 (56)	804 (23)	4,696 (151)
	小学校2年生（障害児）	1,526 (75)	1,848 (95)	700 (17)	4,074 (187)
	小学校3年生（障害児）	1,238 (62)	1,571 (90)	525 (11)	3,334 (163)
	小学校4年生（障害児）	845 (44)	1,012 (72)	346 (14)	2,203 (130)
	小学校5年生（障害児）	417 (29)	616 (54)	181 (7)	1,214 (90)
	小学校6年生（障害児）	163 (11)	322 (33)	110 (6)	595 (50)
	その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計（障害児）	5,953 (293)	7,497 (400)	2,666 (78)	16,116 (771)	
学 年 別 利 用（登 録） で き な か っ た 児 童 数	小学校1年生（障害児）	/			11 (2)
	小学校2年生（障害児）				3 (0)
	小学校3年生（障害児）				6 (0)
	小学校4年生（障害児）				1 (0)
	小学校5年生（障害児）				13 (0)
	小学校6年生（障害児）				3 (0)
	その他（障害児）				0 (0)
合計（障害児）	37 (2)				

注：（ ）内の数は、再掲である。

(4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合 計 B
		市（特別区）	町	村	
19	100 %	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移

